

# テント・のぼり旗の取り付け方 No. 1

【のぼり旗はレンタルされた方のみです。】



●テント部分のポールを立ててください。



●テント部分を差し込んでください。



●テント部分の出来上がりです。



組立て完了で～す♪♪

# テント・のぼり旗の取り付け方 No. 2

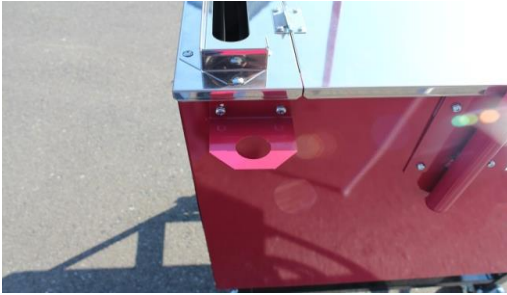
【のぼり旗はレンタルされた方のみです。】



●つづけて、のぼり旗を取り付けます。

のぼり旗 各パーツです。

※のぼり旗のレンタルは別途料金になります。



●上部の金具を取り付けてください。



●下部の金具を取り付けてください。

左写真のように逆さにして取り付けていただくと作業がし易いです。



●クルッと回転させて、正規の位置に戻して固定してください。



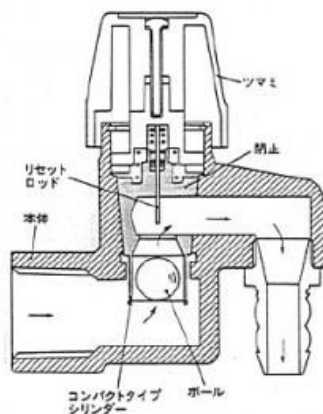
●のぼり旗のポールを立てて出来上がりです。

組立て完了で～す♪♪

※返却時には取り付けた金具を取り外した上、返却してください。

(取り付けたままですと、箱に入りませんのでご協力ください。)

## ●ガスに火がつかない場合は？



お客様が用意したプロパンガスボンベには通常上記の様なガスコックが付いていますが、このガスコックの中には図の様な安全装置が付いています。

(過大な流量のガスが流れるとボールが押し上げられてガスを遮断します。ラムネの瓶のビー玉をイメージしてください)

レンタル頂いた弊社のガス機器に火がつかない場合の多くは、お客様に用意して頂いたプロパンガスボンベの安全装置が働き、ガスが遮断されている状態となっている事が考えられます。

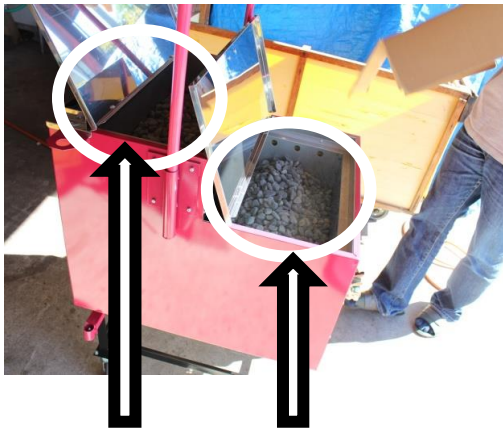
この安全装置は一度プロパンガスボンベのガスコックを閉じる事でリセットされます。ガスホースをガス機器つないでコックを開けても火がつかない場合は

1. 弊社からレンタルしたガス機器のガスコックを一度全部閉じる。
2. プロパンガスボンベのガスコックを一度閉じる
3. 閉じたプロパンガスコックのコックを再び開ける
4. 弊社からレンタルした機器のガスコックを開けて火をつける

上記の順番を試してください。

※ ガス機器のコックを開けたままプロパンガスのガスコックを開けると、抵抗無くガスが流れるためにプロパンガスボンベの安全装置が働きガスを遮断する場合があります。

# 焼き芋の焼き方 No. 1



【保温室】 【燃室】

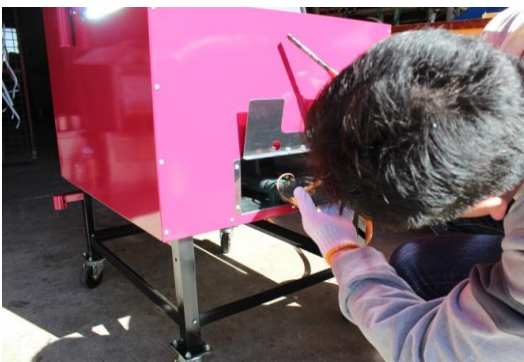
●焼き石を保温室に一並べ(焼き芋が直接保温室の底に着かない程度)敷いてください。

(焼き芋から出る水蒸気が保温室内に付いて水っぽくなるのを防ぐ為です。)

●残りの焼き石を全て燃室に入れ敷き詰めてください。



●燃室のドアを必ず閉めてください。



●ガスバーナーを点火してください。

ガスが完全燃焼するようにダンパーを調節してください。  
(下記のガスバーナー使用方法をよく読んで、ご使用ください。)

●約40～50分程度、焼き石を空焚きしてください。

決して燃室のドアを開けないでください。

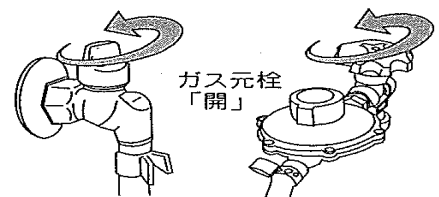
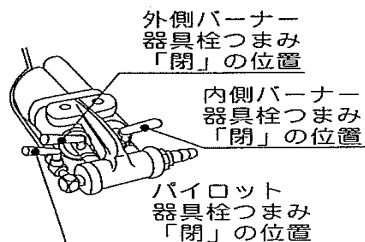
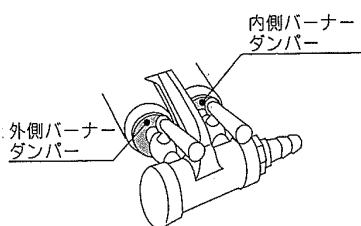
(石の中に多少水分が含まれている物がある可能性があり、膨張して割れた時跳ねることがあります。)

## ◆◆ガスバーナー使用方法◆◆

### \*\* 準備 \*\*

●ゴム管がひび割れしたり、折れ曲がったり、器具に触れたりしていないこと。

●バーナー及びパイロットの各器具栓つまみ(コックつまみ)の位置が全て「閉」の状態を確認し、ガス元栓を全開にしてください。



### \*\* 着火 \*\*

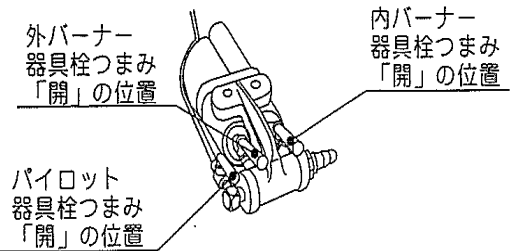
①パイロットの器具栓つまみ(コックつまみ)を「開」の位置まで開いて、先の長い点火器具を使用し、点火してください。

②バーナーの器具栓つまみ(コックつまみ)を「開」の位置まで開いてバーナーに点火してください。

③点火の確認を必ず行ってください。

# 焼き芋の焼き方 No. 2

- 点火器具の炎の先を点火部に近づけてから器具栓つまみ(コックつまみ)を、ゆっくり開き点火してください。
- はじめて点火するときは、ゴム管内に空気が入っていて点火しにくいことがあります。
- 使用中はパイロットの火を消さないでください。
- バーナーの点火は必ず内側の輪より着火してください。

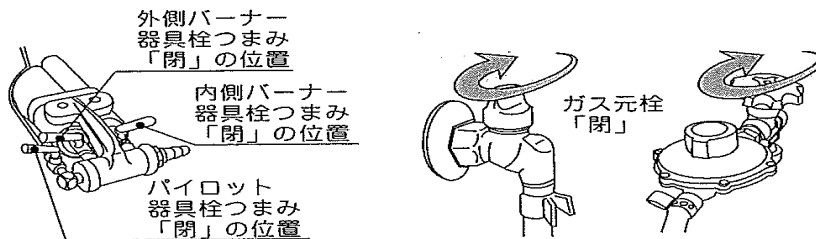


## \*\* 消火 \*\*

- ① バーナー及びパイロットの各器具栓つまみ(コックつまみ)を「閉」の位置までしっかり戻してください
- ② ガス元栓を「閉」の位置までしっかりと戻してください。
- ③ 消火したことを確認してください。

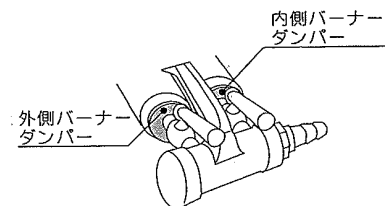
## 【注意】

- 完全に「閉」の位置まで戻さないと、ガス漏れを起こすので大変危険です。
- お出かけの際等バーナーから離れる時は、必ずガス元栓を閉めてください。




## \*\* 空気調節 \*\*

- 炎が赤火(不完全燃焼)またはリフト(炎が飛ぶ)の時は、ダンパー(空気調整板)を左または右に回し青い炎になるように調節してください。



- 芋を燃室の焼き石の上に一列に並べてください。一度に5kg~8kgぐらい入ります。

 左写真は8kg入っています。

- 一度焼き石の温度を上げると、バーナーの内側又は、外側のいずれかを消しても十分に焼けます。外気温と販売する量により火力を調整してください。

※石焼き芋はアルミホイルでは包みません。アルミホイルに包んでしまうと蒸気が逃げませんのでせつかくの石焼き芋が蒸し焼き芋になってしまいます。早く焼きたい場合は焼き芋の上にアルミホイルを被せて下さい。包むのではなく上に乗せて下さい。通常は何もしなくてOKです。

## 焼き芋の焼き方 No. 3



●さつまいもは、焼き始めてから25分～30分で一度裏返してください。  
この際、かなり熱いので必ず軍手を使用してください。  
また中央の火力が強いので、適当に位置をかえてください。



●40分～50分ぐらいで焼き上がりです。  
(さつまいもの大きさによって、多少焼き上がり時間に差があります。)  
●割り箸がスーッと通ればOKです。

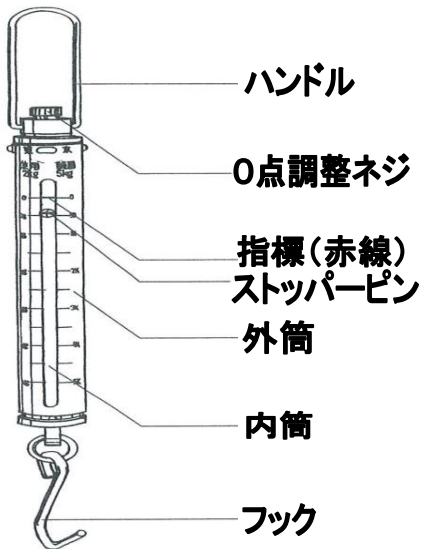


●焼きあがったら上の保温室に移してください。  
保温室は数十分以上入れておくと目方が減り、味が落ちますのでなるべく早く販売するように心がけてください。

# 焼き芋の焼き方 No. 4



はあい！ 焼き上がりです♪♪



## \*\* ばね式手ばかり使用方法 \*\*

●手ばかりのハンドルをS字フック(同封の備品)に掛け垂直に吊り下げます。

●外筒の0目盛りと内筒の赤線が一致しているか確認してください。一致していないときは0点調整ネジを回して調整してください。

赤線を上げるには0点調整ネジを時計周りに、赤線を下げるには反時計回りに回します。

◎0点調整の時は本体を垂直に吊り上げ、フックには何も掛けない状態で調整してください。

◎0点調整の範囲は狭いので、回し過ぎると故障の原因となります。(0を中心に1目盛り以内)

品物をフックに掛けて重さを計ります。

# 焼き芋機梱包の仕方 No.1



●焼き芋機の保温室と燃室から焼き石を全部取り出し、入っていた箱に全て入れてください。  
(左図は取り出した状態です。)

●更にバーナーも取り出してください。

※石とバーナーが十分に冷えたことを確認してから行ってください。



●バーナーは、左図のようにエアパッキンで包んで箱に入れてください

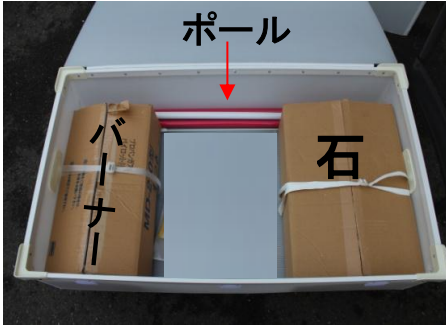


●テント部分(ポールも含む)・棒ばかり・カゴを本体から外してください。

☆ 全ての部品です☆

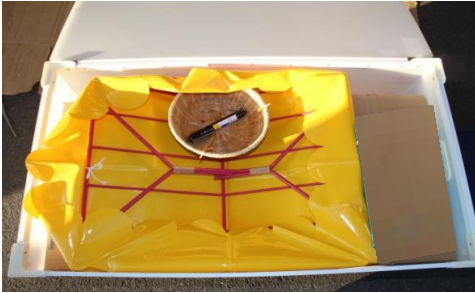


## 焼き芋機梱包の仕方 No.2



☆ 左図を参考にしてください☆

- 焼き石とバーナーをケースの両側に置いてください。
- ポールを左図の位置に入れてください。



- 中央の空いているスペースにテント部分を入れて頂き、左図の様にテントの上にカゴ・棒ばかりを入れてください。



- 左図のようにPPバンド2本で留めてください。
- 返却伝票を貼ってください。

## 焼き芋機梱包の仕方 No.3



- 本体を載せていただく台座です。



- バーナーと石を全て取り出したことを確認してから、箱に本体を入れてください。



●箱に前面と後面のシールが貼ってありますので、間違わないようにご注意ください、上から箱を被せてください。



●出荷伝票下のビニール封筒の中の返却用着払い伝票を貼り付け位置に貼って返してください。

●PPバンド2本で留めてください

※梱包時、重量約46kgです。(石とバーナーは含まれていません。)

## 要注意！！

※佐川急便は50キロ以上の荷物は配達しませんので、石やバーナーを石焼き芋機から取り出し  
忘れたまま佐川急便のドライバーに引き渡しますと、営業所で重量を測られてしまい50キロ  
以上あると配達を拒否されてしまいます。

※その場合の延滞金や割り増し料金はお客様にご請求させていただきますので、  
十分に注意してください。

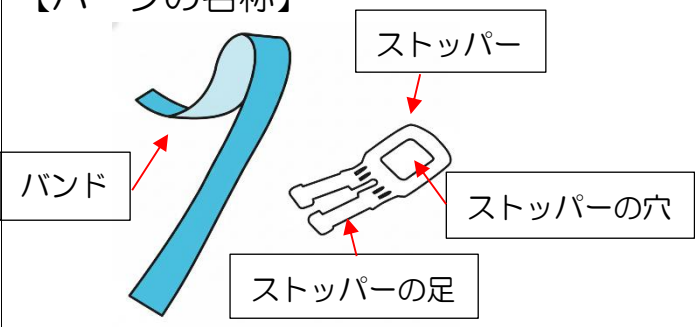
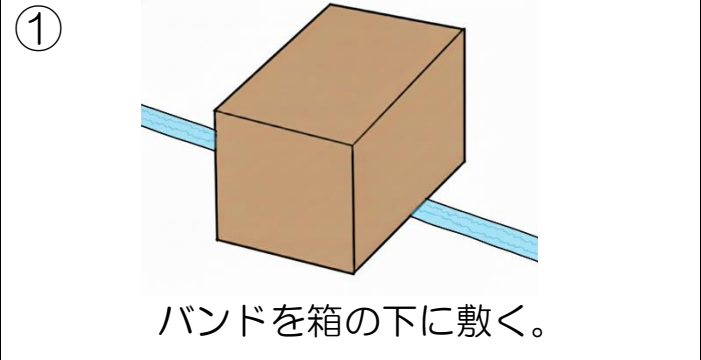


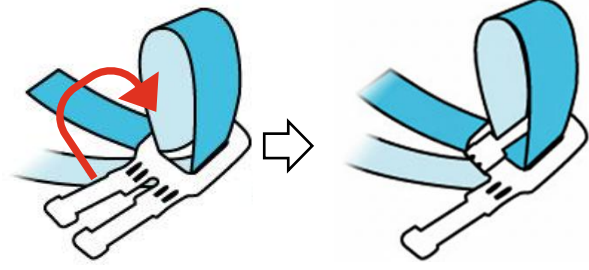



# 梱包時PPバンドの使用法



下記手順を参考にしても分からない場合は、動画でも確認できます。

QRコードまたはリンクからご視聴ください。

<https://youtu.be/8ZejU--OkI4>

<p>【パーツの名称】</p>  <p>バンド</p> <p>ストッパー</p> <p>ストッパーの穴</p> <p>ストッパーの足</p>	<p>①</p>  <p>バンドを箱の下に敷く。</p>
<p>②</p>  <p>バンドの先端に輪を作る。</p>	<p>③</p>  <p>作った輪をストッパーの穴に通す。</p>
<p>④</p>  <p>ストッパーの足1本をバンドの輪の中に折りたたむ。</p>	<p>⑤</p>  <p>バンドの先端を矢印の方向に引っ張る。</p>
<p>⑥</p>  <p>荷物の下に通した反対側のバンドの先端も同様に（バンドの向きは反対となります）②～⑤の手順を行う。</p>	<p>⑦</p>  <p>バンドを両端に引っ張り、しっかり締める。</p>